

大学連携の取組について

1 取組状況について

- (1) 飯田大学連携会議「学輪 I I D A」
- (2) 「学びの宝庫 飯田」フィールド活動
- (3) 域学連携
- (4) 高大連携 ～「知のネットワーク」を活用した人材育成
- (5) その他の大学連携

(1) 飯田大学連携会議「学輪 I I D A」

平成 23 年 1 月、飯田と関係を深めてきた大学・研究者等で設立。現在 43 大学等 96 名の研究者等が参画。コンセプトは、21 世紀型の新しいアカデミーの機能や場づくりで、飯田を拠点とした大学間連携の形成、さまざまな知見の融合、飯田を起点に相互につながる有機的なネットワークを形成しつつ、モデル的な研究や取組を地域とともに行っていく試み。

① 学輪 IIDA 全体会「公開セッション」「内部討議」 毎年 1 月中旬開催

学輪 IIDA のメンバーが一同に会し、学輪 IIDA の価値や大学連携の取組の検証、学輪 IIDA の意義や価値の発信、飯田における教育研究報告、今後の方向性や具体的な活動の検討などを行う。

② 学輪 IIDA プロジェクト会議

○知の拠点プロジェクト会議(旧飯田工業高校後利用プロジェクト会議)

「知の拠点」の目指す姿を確認・共有し、その姿の実現に向け今後必要となる考え方や取組について、学輪 IIDA の役割等を見据えつつ検討し、今後の活動につなげていく。

○共通カリキュラム構築プロジェクト会議

次頁に掲載

③ 機関誌「学輪」発行、ホームページ、メールマガジン発行

飯田市と関係を深めてきた大学・研究者等が、飯田を起点として相互につながる有機的ネットワークを形成するため、機関紙「学輪」を発刊する。学輪 IIDA や大学研究者等の飯田における教育・研究活動を蓄積するとともに、多くの方に知っていただくことを目的とする。

編集局：和歌山大学 編集委員：和歌山大学、立命館大学、名城大学、東洋大学

(2) 「学びの宝庫 飯田」フィールド活動

① 南信州・飯田フィールドスタディ(主催：飯田市) ※平成 20 年度から毎年実施

まちづくりに関心のある学生を対象に、飯田を「学びの場」として提供する 3 泊 4 日の学習プログラムである。環境・産業・自治・まちづくりなど、様々な分野において主体的に活動している実践者を講師に迎え、地方都市の実情を直接肌で感じながら、他大学の学生や地域住民との学習や交流を通じて、持続可能な地域のあり方を考える。

◆平成 29 年度の例

	日程	参加大学	参加人数	内容
1 回目	8 月 4 日 ～7 日	立命館大学、立命館アジア太平洋大学、首都大学東京、愛知大学 <一部参加> 法政大学、名城大学、 飯田風越高等学校	136 名 内一部参加 104 名	①座学（市長講義、地域づくり、調査法） ②体験学習（りんごん、人形劇、公民館活動、市民活動）
2 回目	9 月 3 日 ～6 日	名古屋経済大学、日本福祉大学、 静岡県立大学	22 名	③市民間取調査 ④農家民泊 ⑤グループワーク ⑥発表

② 共通カリキュラムフィールドスタディ（主催：共通カリキュラム構築プロジェクト会議）

飯田の価値の発見・共有化するため、飯田における研究や教育のコアを確認して体系化・「見える化」と、新たな域学連携、大学間連携を通じて、地域と大学が共に学び合う場づくりに取り組む。飯田の価値を体系化・「見える化」するための方法の一つとしての「共通カリキュラム」を構築し、モデルプログラムとして導入科目と展開科目の実証実験を行う。

年度	テーマ	参加大学	人数
平成 24 年度	ソーシャルキャピタル	立命館大学、名城大学、和歌山大学	29 名
平成 25 年度	地域環境政策	立命館大学、名城大学、立命館アジア太平洋大学	28 名
平成 26 年度	ニューツーリズム	立命館大学、名城大学、和歌山大学、東洋大学	37 名
平成 27 年度	ソーシャルキャピタル	立命館大学、名城大学、和歌山大学、東洋大学	41 名
平成 28 年度	地域経営論	立命館大学、名城大学、和歌山大学、東洋大学、立命館アジア太平洋大学	50 名
平成 29 年度	地域文化論	立命館大学、名城大学、和歌山大学、東洋大学、立命館アジア太平洋大学、静岡文化芸術大学 <飯田高校、飯田風越高校 12 名>	58 名
	<p>日 程：8 月 17 日～20 日</p> <p>テーマ：「地域活性化を生む地域アイデンティティの形成のあり方を考える」</p> <p>地域アイデンティティを軸に、飯田の人々の地域への愛着や帰属意識を多様な分野から探ることで、地域活性化を実現するための地域アイデンティティの形成のあり方について考えた。</p> <p>また、地域学習をおこなっている高校生も部分的に参加し、大学生と共に聞取調査やグループワーク等を行った。</p> <p>内容(主なもの)：座学（地域文化概論、調査法）、聞取調査（30 団体）、農家民泊グループワーク、発表等</p>		

③ その他フィールドスタディ（企画課対応分）

大学名、機関名	実施日、参加者、テーマ、内容など
<p>東京大学 体験活動プログラム 2017 (社会教育調査実習)</p>	<p>日程：9月20日～23日 参加者：学部生・大学院生（3名） テーマ：飯田市の公民館を中心とした社会教育、まちづくりの実践を学ぶ。 内容：社会教育概要、聞き調査、農家民泊、高校生との交流など *飯田での調査実習終了後、毎年「飯田市調査実習報告書」を発行。（平成22年度より）</p>
<p>法政大学国際文化学部 StudyJapan 国内研修</p>	<p>日程：8月31日～9月7日 参加者：学部生（留学生）2名 内容：飯田線建設、中国帰国者、満蒙開拓、高校生交流 若者活動の聞き調査など *留学生が、地方の中山間地域での生活を体験する事で、東京からの発想とは別に、地方の視点で考える目を養う。飯伊の歴史・社会・文化・民俗自然などの前提知識を身につけた上で(前後15回の講義に出席)、研修に参加。</p>
<p>総合研究大学院大学 理系大学院生フィールドスタディ</p>	<p>日程：9月21日～23日 参加機関：総合研究大学院大学学融合推進センター、高エネルギー加速器研究機構、国立遺伝学研究所、国立統計数理研究所、国立天文台（計9名） 内容：飯田市の概要、聞き調査、農家民泊、高校生との交流 演習、市民向けの公開講座など *大学研究者（教授）を目指す若手研究者（理系大学院生）が、教育方法論・授業論を学ぶと共に、高校生や農家民泊等による地域住民等との交流を通じ、一般住民の科学に対する意識やコミュニケーションの取り方などを実践的に学ぶ。最終日に、自身の先端研究をテーマにセミナーを行い、市民が、先端科学技術の知見に触れる機会や研究者と交流し繋がる機会とする。今年度は試行とし、成果を検証し今後の可能性を探る。</p>
<p>ゼミ単位等でのフィールドスタディ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ日本研究所 7月24日～25日 ・名城大学 8月4日～7日 ・法政大学 8月17日～20日 ・和歌山大学食農総合研究所 8月17日～20日 ・明治大学 8月30日～9月1日 ・高崎経済大学 8月23日～25日 ・立命館大学 8月29日～31日 ・立教大学 9月9日～11日 ・岐阜県立森林アカデミー 10月10日 ・大月短期大学 12月21日～22日

(3) 域学連携

地域の課題や取組と大学の専門性をつなげ、相互の連携のもと教育・研究活動等に取り組む。地域と大学双方にとって価値ある取組を継続する（積み重ねる）ことで、地域の価値を再認識するとともに、地域における教育・研究・開発能力を高めながら、その価値を更に高め、広く発信することで、持続可能なモデル地域の実現を目指す。

① シャレットワークショップ 【豊橋科学技術大学 × 長野高専 × 豊田高専 × 地区】

大学や高等専門学校や建築・都市システム学系研究室が合同で実施する短期集中型の学習実践活動。地域の問題・課題や取組を基にして、大学の専門的な知見でまちづくりをデザインし提案する。

年度	テーマ	地区
平成 23 年度	りんご並木をデザインする	中心市街地
平成 24 年度	旧飯田測候所およびその周辺エリアをデザインする	橋北地区
平成 25 年度	地域資源を活かした回遊ネットワークと拠点をデザインする	橋北地区
平成 26 年度	空き家・空き店舗を活用した市街地再生をデザインする	橋北地区
平成 27 年度	空き家・空き店舗を活用した市街地再生をデザインする	橋北地区
平成 28 年度	飯田駅界隈の都市再生をデザインする～リニア開通後を見据えて	中心市街地
平成 29 年度	八幡町の未来をデザインする	松尾地区
	期日：7月15日、8月16日～20日 内容：八幡町区には、空き店舗の増加傾向であるが商業や飲食店が集積し、JR 飯田線の伊那八幡駅や鳩ヶ嶺八幡宮といった拠点候補施設が存在するなど、まちづくりの手がかりが数多く存在する。これらを活用し、単にかつての八幡町区の賑わいの再生を指向するのではなく、今後の社会変化を見据えた、持続可能な地域拠点のあり方を考える。	

② 東京大学との社会教育に係る共同研究 【東京大学 × 飯田市公民館】

公民館の役割を検証する共同調査（平成22年度～）

地区館を対象とした調査研究からスタートし、平成 23 年度には分館を対象とした調査研究、平成 26 年度には千代と東野を対象とした実態調査を継続的に実施。26 年度から 27 年度にかけては、調査報告会を実施し、それを受けて東野・千代地区で学習会と情報交換会が実施された。

次世代育成（地域人材教育）の調査研究（平成 29～31 年度予定）

小学校から青年期につながる地域人材教育の現状と課題、今後の展開について、東京大学教育学部と共同研究する。飯田 OIDE 長姫高校の地域人教育における教育効果と課題を調査分析するとともに、他校での展開に向けた可能性を客観的に評価する。

③ 地域社会システム調査実習 【東京農工大学×上村・南信濃村地区】

市民協働と地域の持続可能性に関する調査学習。平成 24 年度から、上村・南信濃地区において、地域課題を踏まえた調査を実施、分析等を行い翌年度の予備調査に併せ地区で発表する。

<平成 29 年度の取組>

期日 5月27日～28日 調査報告・事前調査 8月4日～7日 本調査

④ 飯田水引プロジェクト 【法政大学×水引組合】

水引産業活性化に向けた取組を水引組・南信州飯田産業センターと連携し取り組んでいる。

年度	テーマ
平成 25 年度	ヒアリング調査により水引産業の課題を抽出
平成 26 年度	水引を用いた「飯田水引コンテスト」を企画実施
平成 27 年度	消費者ニーズを元に商品開発を行い、ワークショップで認知度の向上を図る
平成 28 年度	飯田 OIDE 長姫高校と連携した水引弁当の開発と実践販売
平成 29 年度	認知度の向上、新たな市場機会の開拓
	○想いを結ぶ 飯田水引×メッセージカード 11月3日 神楽坂まち飛びフェスタ 2017 でワークショップ 38名参加 ○運を結ぶ 飯田水引×おみくじ (神社で販売予定)

⑤その他 <平成 29 年度の取組> ※企画課対応分

ア) 学融合レクチャー「先端計測制御概論」

【総合研究大学院大学 × 飯田産業技術大学】

国の基礎科学の研究所を基盤とした大学院の授業と飯田産業技術大学特別講座の連携した取組。

日程：7月19日～20日 会場：産業振興と人材育成の拠点 (旧飯田工業高校)

講座：10 講座 (国立民族歴史博物館、国立情報学研究所、統計数理研究所、核融合科学研究所、宇宙科学研究所、高エネルギー加速器研究機構、分子科学研究所、国立天文台、素粒子原子核研究所)

イ) 「飯田下伊那におけるシードルツーリズムの可能性」

【立教大学観光インターンシップ×NPO国際りんご・シードル振興会】

地域課題解決型の長期インターンシップを活用し、シードルツーリズムの可能性を調査、発表

期日：8月1日～30日 インターンシップ 12月2日 シードルツーリズム報告会

ウ) 飯田らしいまちづくり 裏界線の活用プロジェクト「Re: i + i d a p r o j e c t」

【明治大学×事業者×まちづくりカンパニー×座光寺地区×国際りんごシードル振興会】

丘の上のまちづくりを空間建築の視点から調査研究。裏界線を活用した将来ビジョンを描くために、裏界線を実際に使った社会実験を実施し検証を行う。街中の事業者と連携した取組。

期日：9月3日、10月15日

エ) 遠山郷観光戦略調査 【和歌山大学 × 遠山郷】

上村・南信濃の観光振興に向けた調査研究 (観光施設の調査分析)

(4) 高大連携 ～「知のネットワーク」を活用した人材育成

高校生が、大学生との交流や模擬授業で、大学の学問に触れ、学ぶ楽しさや学問領域の広さ、可能性などを知り、学習意欲の向上や視野の幅を広げ、目的を持った進学のかっかけとする。また、飯田をよく知る大学研究者に講義いただくことで、地域との関係性や地域の特徴や価値、可能性について、高校生が再認識する機会とする。

<平成 29 年度の取組>

①高校生を対象にした大学教授による講義（飯田高校、飯田風越高校、飯田OIDE長姫高校）

高崎経済大学地域政策学部 河藤佳彦先生 東京大学大学院教育学研究科 牧野篤先生
東京農工大学大学院農学研究院 榎本弘行先生 東京理科大学理工学部 木村真一先生
日本福祉大学社会福祉学部 大濱裕先生 法政大学国際文化学部 高柳俊男先生

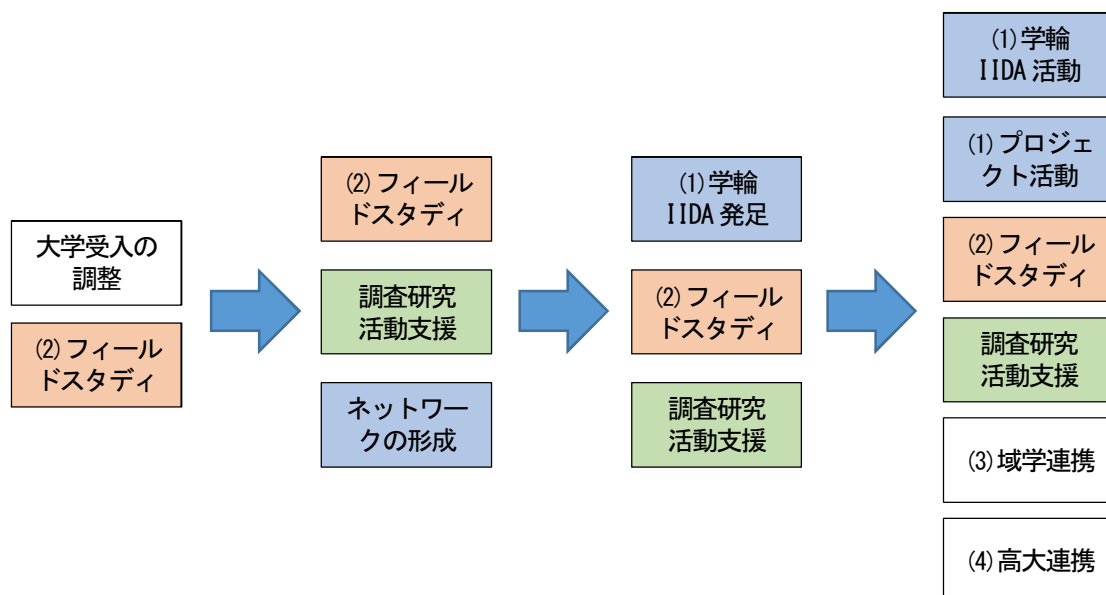
②高校生と大学生との学習・交流

飯田高校×東京大学 飯田風越高校×法政大学S J国内研修留学生
飯田OIDE長姫高校×東京大学、総合研究大学院大学(大学院生)
南信州フィールドスタディ、共通カリキュラムフィールドスタディへの参加
(座学、聞取調査、グループワーク等)

(5) その他の大学連携

- ① 名古屋大学（国際交通安全学会）との共同事業 「ラウンドアバウトの社会実験」
- ② デジタルプラネタリウムプロジェクト 飯田市美術博物館 × 和歌山大学(観光学部)

2 大学連携の取組の変遷について



3 大学連携協定

No.	大学名	内容	締結日
1	立命館アジア太平洋大学	友好交流協定 地域の持続的な発展と国際的に活躍できる人材を育成することを目的とした、友好交流に関する協定	平成17年7月21日
2	信州大学工学部	パワーアップ協定…地域経済活性化、工業振興、産業の発展、人材育成を目的とした連携協定	平成18年1月17日
3	明治大学	連携協力に関する協定書…地域経済活性化、産業の振興、人材の育成を目的とした連携協定	平成19年3月16日
4	和歌山大学	友好交流協定…地域の持続的な発展と国際的に活躍できる人材を育成することを目的とした、友好交流に関する協定	平成19年5月7日
5	長野工業高等専門学校	連携に関する協定書…地域経済活性化、産業の振興、人材の育成を目的とした連携協定	平成19年6月7日
6	松本大学	飯田OIDE長姫高等学校…地域人教育推進に関するパートナーシップ協定	平成25年4月26日
7	飯田女子短期大学	包括連携協定…教育、文化、健康、福祉、医療、産業、環境、まちづくり、学術研究など多様な分野において相互に協力することで、人材の育成と地域振興に寄与することを目的とする。	平成25年7月5日
8	豊橋技術科学大学	包括的な連携・協力に関する協定…包括的な連携・協力のもと産業振興、生涯学習、文化、福祉、まちづくりなどの様々な分野で相互に連携・協力することで、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とする。	平成25年10月3日
9	法政大学	事業協力に関する協定…相互の連携・協力のもと、地域社会の発展と教育研究の向上を推進し、大学と自治体の連携による地域振興のモデルケースを構築の上、全国に情報発信を行なって社会貢献を果たしていくことを目的とする。	平成26年9月29日
10	東京農工大学大学院 農学研究院	包括的連携・協力に関する協定…双方の緊密な連携と協力のもと、乙の目指すべき地域像の実現に向けた「まちづくり」の諸施策に関連する領域における相互の人的・知的資源の交流や活用並びに教育・研究を通じて、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とする。	平成27年1月20日
11	立教大学 ESD研究所	ESD研究連携に関する覚書 遠山郷の小中学校について特色ある教育を進めるためのユネスコスクールに関する研究や、公民館を中心とした社会教育活動、環境教育・学習等の取組について、ESDに関する専門的知見や人的ネットワークを活用し、体系的なプログラムの構築や実践力の強化を図る。 具体的連携事業 ・ユネスコスクール等の研究 ・体系的な環境学習・プログラムの構築等（体系的な環境学習を構築すること、市民のニーズに即した環境プログラムを構築すること） ・公民館主事の企画実践力の向上 ESD（持続可能な開発のための教育）とは、持続可能な社会を構築する担い手を育む教育です。 ・人格の発達や自立心、判断力、責任感などの人間性を育むこと ・他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと	平成29年12月14日 予定